

茶子

も無之間不可及祇候、達而被申之、既御成前日の夜半まで不相果間、大永四年ニ典厩へ御成任例、京兆衆をば内々へよび被申、湯漬點心など被參候訖、

〔七十一番歌合下〕五十七番 右

てふさい

よもすがらあすのでんしんいそぐとも心もいらぬ月をみる哉

〔運步色葉集地〕茶子

〔書言字考節用集六服食〕茶子チャ、コ今按以茶表父母、餅比子之謂

〔類聚名物考飲食四〕茶子 ちやのこ

是又點心の俗語也、さりながら禪林の詞、建武の比よりいへるなり、

〔異制庭訓往來〕茶子者可爲麩指物、零餘子指豆腐上物、油炙、笋干、干栗、松茸、炙昆布、泥和布、出雲苔、亂絲、萬金、籃子、唐納豆、牛房引干、干蘿蔔、胡桃、串柿、干棗候也、

〔尺素往來〕茶子者、荔枝、龍眼、胡桃、榎實、榛、栗子、梧桐子、烏芋、海苔、結昆布、蕨子、刺薺、菱、串柿、挫栗、干松茸、干竹筍、乾胡蘆、乾蘿蔔、炒付引干、苔菽、興米、炙麩、油物等、

〔簾中舊記〕御なりの事

一十一日に御參り候はぬ御かたへは、十六日の御ちやに御參り候、みやへは小上らふたち御はんせん候、とうたうち御はんたちへは、御なかだち御はんせんを御さた候、入江殿より御ちやのこ參り候、參りざまには一いろづ、もちて御參り候、御あげ候時には、御ちやのこけんざん一つに御あげ候、

〔常盤姫物語〕念佛申身なれども、くうのもむじがたえせねば、せつのほうともいひぬべし、わかてのみし茶もほしや、ちやのこも更に忘られず、

〔山内料理書〕一茶のこには、しほくしき物のこまやかなる物をせよ、これ第一習也、くわしとは